

市長部局側 議題

総合教育会議資料



資料3

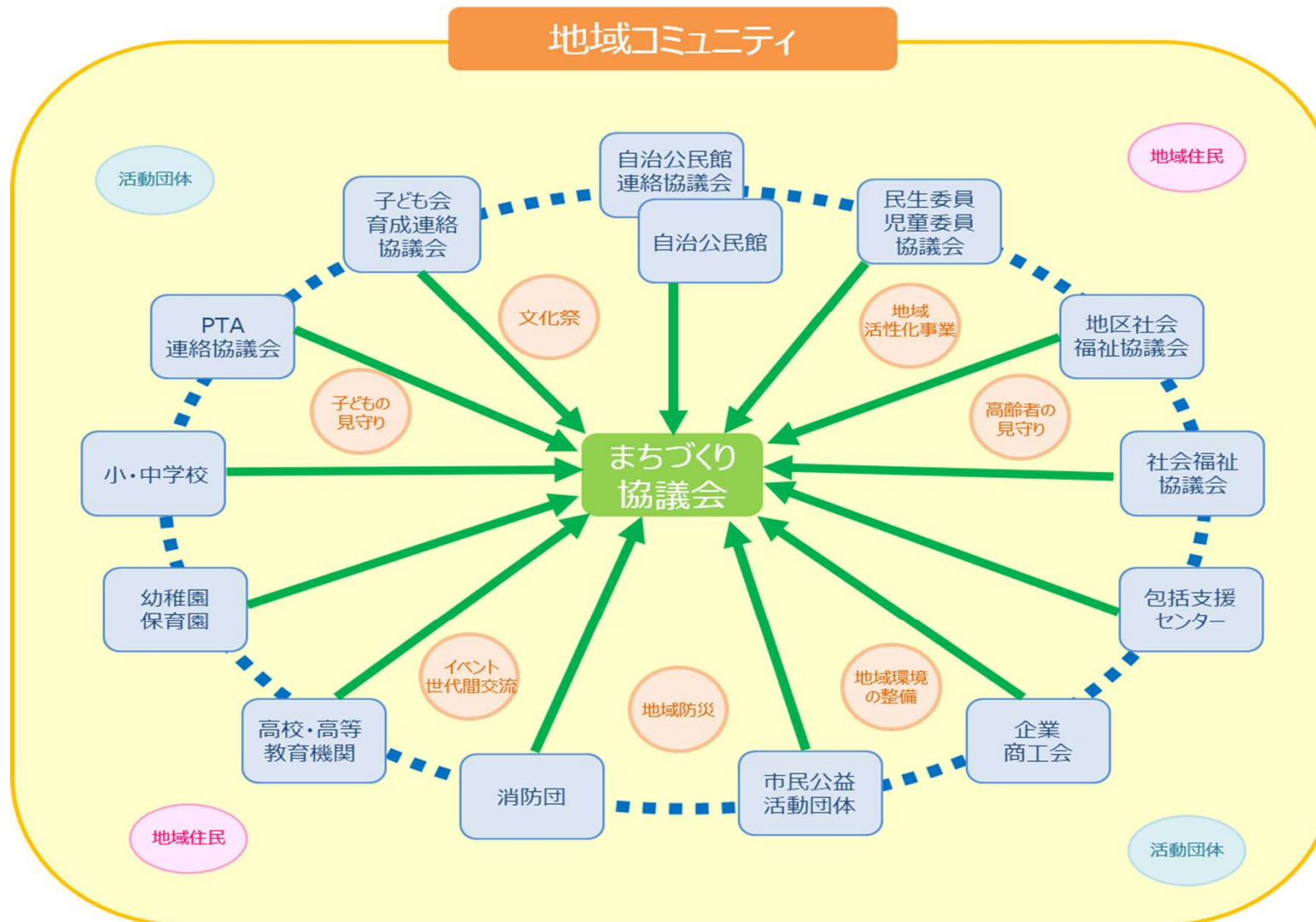
持続的な地域コミュニティの 基盤形成に向けて

～子どもの成長機会確保と地域のあり方～

令和8年7月
都城市

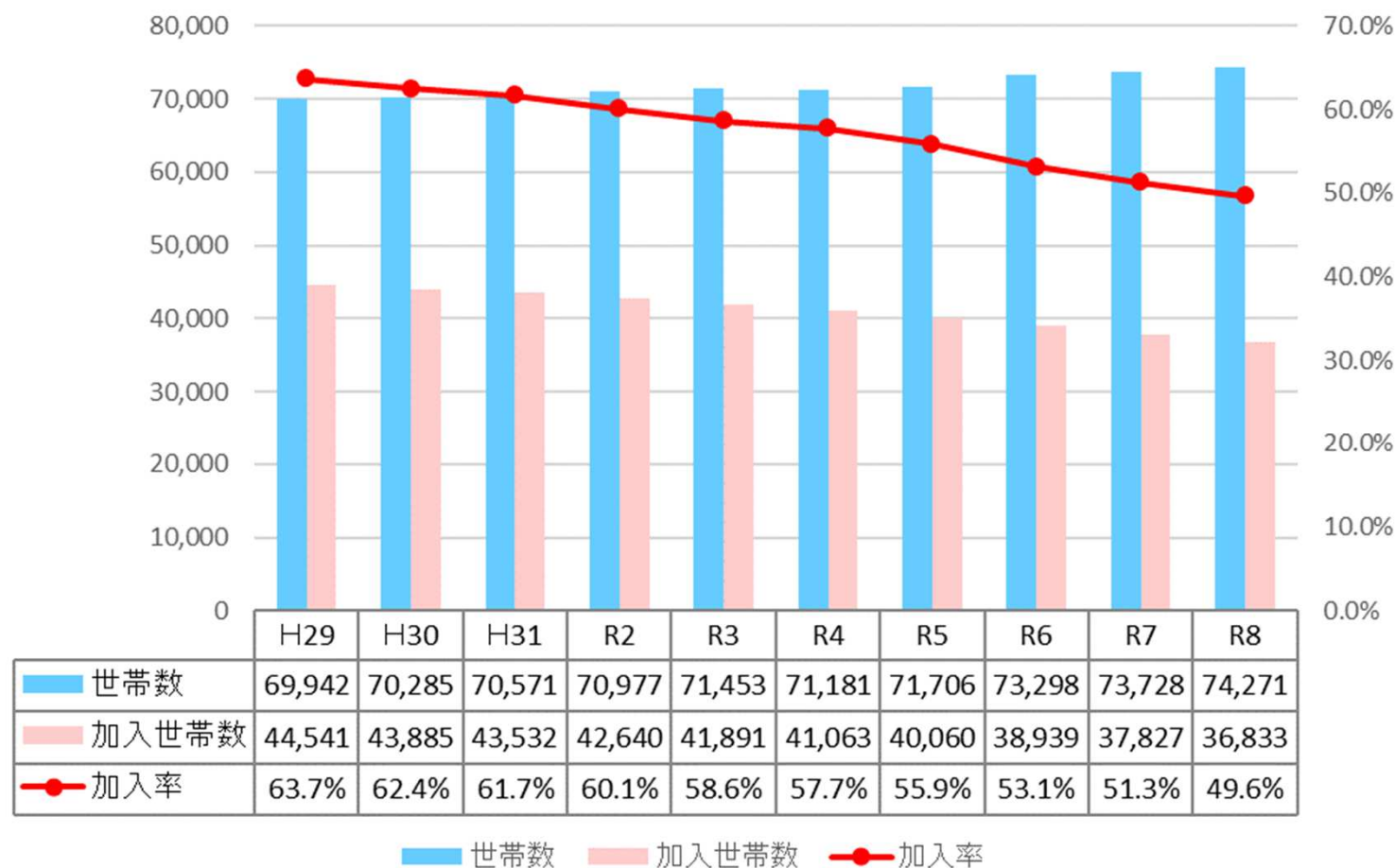
1 都城市の地域コミュニティの現状

地域コミュニティのイメージ



1 都城市の地域コミュニティの現状

①自治公民館



令和8年4月1日現在
自治公民館加入率
49.6%

総世帯数は
近年増加傾向

加入世帯数は
減少傾向

H29からの自治公民館
加入率変動
▲14.1ポイント

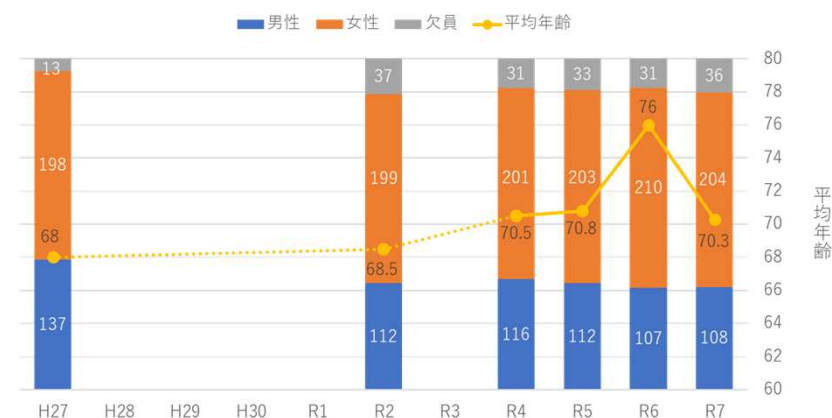
1 都城市の地域コミュニティの現状

②消防団



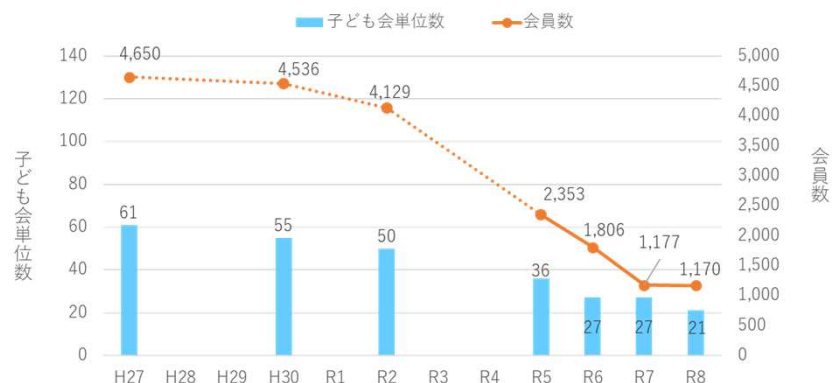
団員数はやや減少傾向

③民生委員・児童委員



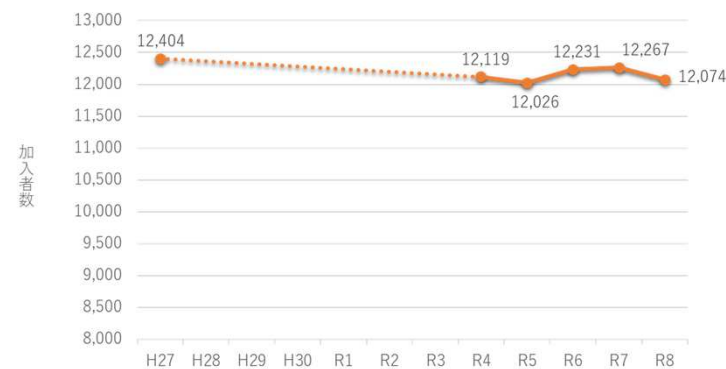
平均年齢が70歳を超え、欠員は近年増加傾向

④市子ども会育成連絡協議会



現在、市子育連へ加入しているのは15地区中2地区のみで、会員数は減少中

⑤市PTA連絡協議会



市PTA連協の会員数はおおむね横ばいで推移

2 地域コミュニティが抱える課題

地域組織が縮小している理由

- ・役員負担等への不安
- ・加入メリットの不明瞭さ
- ・人間関係の煩わしさ など

+

社会情勢の変化

- ・共働き世帯の増加(時間的制約の増大)
- ・価値観の多様化(個人の自由と地域への帰属意識の変化)
- ・デジタル化の進展(対面的な関わりの希薄化) など

急速な社会変化で従来の地域コミュニティの在り方と住民ニーズに乖離が発生した結果・・・

課 題

高齢化や担い手不足により、地域の安全・安心を支える機能が脆弱化

- ・高齢者の孤立化
- ・災害時の共助機能低下
- ・見守り体制の弱体化 など

【参考】地域コミュニティ在り方検討会

R7.4月

都城市自治公民館加入促進検討会 設置

一年間で検討会を8回実施

R8.4月

都城市自治公民館加入促進検討会
⇒市長へ提言

＜提言の主な内容＞

地域コミュニティの在り方の見直し

持続可能な地域コミュニティを形成していくためには、誰もが参加しやすく、時代の変化に対応した地域コミュニティの在り方を検討する必要があります。

自治公民館だけでなく、まちづくり協議会をはじめとする地域の各種団体が連携強化及び役割分担を検討し、多様な人が、無理なく、安心して、ゆるやかにつながり、必要な時に支え合える地域コミュニティの構築を目指すべきであると考えます。

提言を踏まえて

R8.4月

都城市地域コミュニティ在り方検討会 設置

多様な人が、無理なく、安心して、
ゆるやかにつながり、
必要な時に支え合える
地域コミュニティの在り方を検討

＜3つの視点で検討＞

地域組織の連携
と役割分担

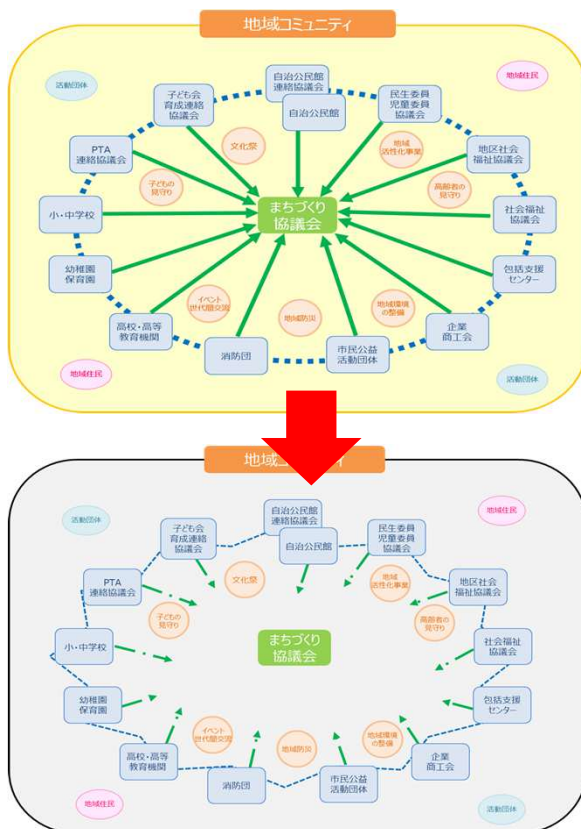
ゆるやかな
つながり方

必要な時に支え
合えるしくみ

地域コミュニティの
基本形

3 子どもへの影響

地域コミュニティの機能が脆弱化してしまった場合・・・



イメージ

○世代間交流の機会が減少

高齢者などの異なる年代の人と触れ合うきっかけが減り、遊びや学びの幅が狭まる？

○地域への愛着形成が困難に

地域の歴史や文化に触れる機会が減少し、郷土愛を育てる機会が不足？

○社会性を育成する機会が不足

集団活動での協調性・責任感を育む機会が減少し、地域の一員としての自覚が希薄に？

地域の結びつき弱体化

＝子どもの健全な成長を育む機会が減少する可能性

4 世代間交流の価値

(菓子野小学校)

今屋俵踊り



「今屋俵踊り保存会」を招き、3・4年生が練習してきた踊りを披露。プロから具体的なアドバイスをもらうことでさらに上達。

(有水中学校)

がねづくり



地域学習の一環として、調理実習を行う際に地域の方を招き、一緒に郷土料理である「がねづくり」を実施。

(今町小学校)

戦争体験講話



社会科学習において、戦争体験者を講師として招き、戦争中・戦後の生活について直接話を聞く機会を設定。

○伝統文化の継承 (伝統的な踊り、郷土料理など)

○人生経験に基づく生きる知恵の伝承 (困難を乗り越える力、平和の尊さなど)



高齢者が持つ豊富な知識・技能・人生経験などを若い世代につなぐ貴重な場

5 学校と地域の連携

山田中学校



学校運営協議会委員や地域住民の意見を取り入れながら、生徒会企画による地域貢献ボランティア清掃を実施。

妻ヶ丘中学校



まちづくり協議会等に生徒会役員が積極的に参加し、ふれあいまつりの企画・運営に従事。120名の生徒がボランティアとして参加。

- ・将来の地域リーダーの育成
- ・社会貢献意識の醸成
- ・地域への愛着と誇りの醸成 など

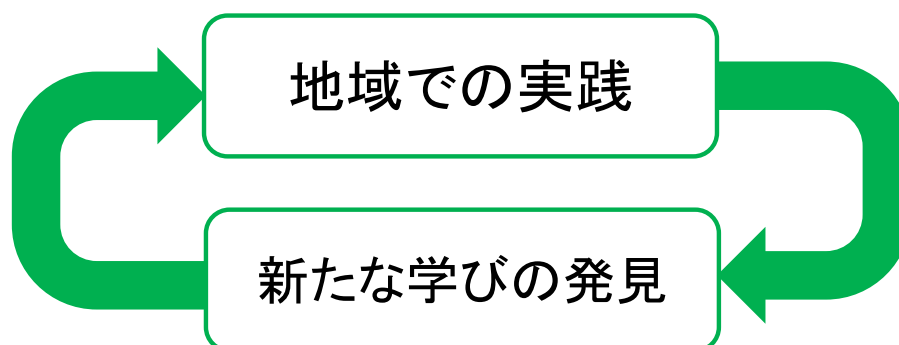
6 地域活動の教育的な効果

地域活動への参画＝実践的な学習機会

教育的効果

- ・地域社会における役割意識の醸成
- ・社会的責任感の育成
- ・継続的な学習意欲の向上

〈学びの好循環〉



手話体験



苗植え体験

7 持続的な地域コミュニティにおける教育的視点

子どもの健全な
成長機会の確保

多世代交流の促進と
経験・知恵の継承

学校と地域の
継続的な連携

実践的な生涯学習
の機会創出

8 他自治体の先進事例（市長部局における取組）

大学生×市民センターによる 地域共創プロジェクト(福岡県北九州市)

- ・参加学生・・・北九州市立大学 地域創生学群
1年生 約120名
- ・受入れ先・・・市内の市民センター16館
- ・活動内容

学生が16チーム(1チーム8名程度)に分かれ市民センター(16館)を一定期間、定期的に訪問し、市民センター事業や地域活動へ参加。

定期的な訪問を通じて、各チームが地域の実情に応じたテーマを設定し、市民センターや地域の協力を得ながら、学生自ら企画・立案し、活動を実施。

その活動内容をラジオ(FM KITAQ)でも発表。



学生による
地域への参画

(出典)北九州市HP

公民館からコミュニティセンターへの移行 (福井県敦賀市、佐賀県佐賀市、島根県浜田市 など)

- ・地区公民館をコミュニティセンター(公の施設)へ移行し、地域コミュニティの拠点性を向上。
- ・地域活動に伴う販売行為や有料イベントの開催、貸館等が可能となり、これまで以上に多様な使い方が可能に。
- ・イベントやマルシェ、防災フェスタなどの開催により多世代が集える交流拠点となり、地域の賑わいを創出。



手作り品のバザー



キッチンカー

多世代交流の
拠点創出

(出典)敦賀市HP

9 今後の検討課題

⇒ 新たな地域コミュニティの実現には、市長部局と教育委員会が連携し、
制度改革と意識改革の両面でアプローチしていくことが重要

制度・体制の見直し

- ① 役割の見直しなどによる自治公民館等の負担軽減
地域コミュニティの新たな拠点創出(コミュニティセンター等)
- ② 学校と地域のさらなる連携強化 など

地域住民の理解促進

- ① 地域コミュニティの意義や価値についての再認識
当事者意識の醸成、課題の自分ごと化
- ② 子どもを地域で育てる大切さの再確認 など



幸せ上々、みやこのじょう

日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統